

Ai センター

■ スタッフ

センター長 兼児敏浩
 副センター長 中塚豊真
 専任助教 藤森将志

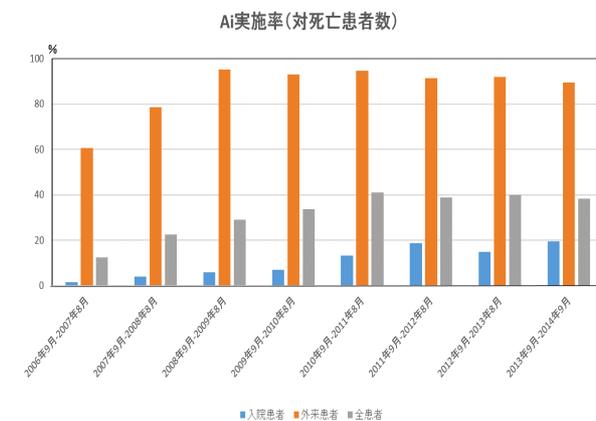
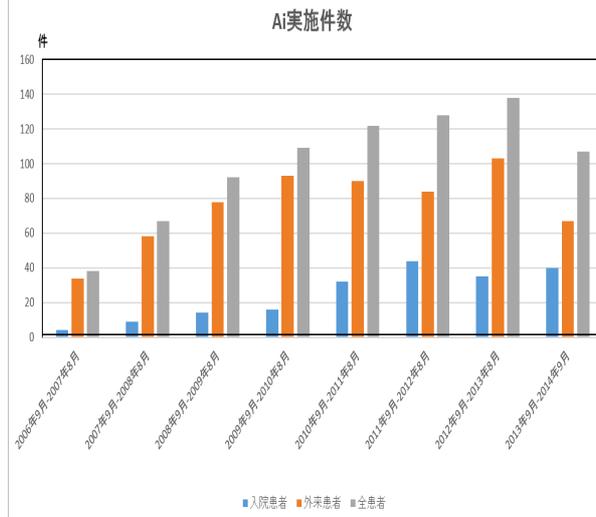
■ Ai と Ai センター

当センターは平成 21 年 9 月に中央部門として設立されました。当院における Ai（オートプシーイメージング、死亡時画像診断）は、平成 15～17 年ごろから救急部門を中心に開始され、平成 18 年（2006 年 9 月）には医療の質・倫理検討委員会において推奨される院内での公式のシステムとなりました。その後、Ai の社会的ニーズの高まりを受けて、Ai の質を高め、外部からの要請にも対応が可能なように、独立したセンターとして設置されたものです。中央放射線部が主体となって運用されていますが、Ai 症例検討会を開催するなど、組織横断的な活動も行っています。

Ai は死亡時に CT を中心とした画像診断を行い、死因究明の一助とする方法ですが、非外傷死の 3 割程度、外傷死のほとんどの事例で死因の推定が可能となるといわれています。また、よりの確な死因究明に貢献するだけでなく、医療施設で亡くなった方については診療行為関連死に関連する調査、医療施設以外で亡くなった方については事件性の有無に関係する調査においても威力を発揮します。当院は Ai の先進的な施設として、また、国立大学附属病院における草分けとして、積極的に Ai に関わってきており、Ai 学会によって、Ai 認定施設（施設 A）に認定されています。

■ 実績

公式のシステムとなった平成 18 年（2006 年 9 月）からの実績をグラフに示します。最近では、実施件数は年間 120 件前後、実施率は入院死亡事例に対しては、15～20%、外来死亡事例に対しては 90%以上となっています。また、外部からの依頼事例も年々増加し、特に医療施設外の死亡事例に対する警察関連からの依頼には毎月複数事例以上対応しています。



■ Ai 症例検討会

Ai の質の向上と現場への効率的なフィードバックを目的として、Ai 症例検討会を毎月開催しています。警察関連からの依頼事例、病理解剖も実施された事例を中心に検討されますが、毎回、20 名程度、多くの職種から参加があり、学際的な検討が可能となっています。



Ai 症例検討会

■ 今後の展望

AiセンターはAiの施行・読影を最終的な目的としているわけではなく、Aiを通しての医療の質の向上を目指しています。今後、Aiに対する社会的ニーズ、期待はさらに大きくなっていくと考えられますが、多くの方のご協力を得ながら、その期待に応えていきたいと考えております。